

**J A L 愛媛原告を支える会
あの空へ
ニュース
帰ろう**

発行：J A L 不当解雇とたかう愛媛原告を支える会
連絡先：愛媛自治労連会館3F愛媛労連内
松山市三番町8-10-2 Tel 089-945-4526



(大池さん撮影の犬と猫)

解雇されてから2年半、無収入の期間も長くなりました。裁判はいつまで続くかわかりませんので、4月から働くことにしました。

休みが自由に取れて、今までの経験を生かせるであろう仕事を見つけ、意気揚々と始めたのですが、非正規雇用の悲哀にさらされています。まず、時給が安いです。少しでも多く働かないでお給料が増えません。なので、無理をして仕事を請けてしまいます。「できません」と言ふと、干されて仕事が回つてこないし……。「これ、労基法違反じゃないんですか?」と言うおうものなら、たぶん即クビでしょう。言われるがまま、身体

大好きな仕事に

早く戻りたい

西予市出身
原告 大池ひとみ

を酷使して働き、責任はすべて押しつけられ、こんなに働いてもこれだけの給料。ほとんどの方が副業をお持ちです。

スケジュールは個人情報とやらで教えてもらえないので、他の方々がどんな過酷な働き方をしているかは全貌不明です。が、「長時間」「深夜」「連続勤務」「休日なし」で働いているのがほとんどのようですね。幸い、私と一緒に入社した同期5人は仲がよく、互いに情報交換をしています。不満の声はだいたい同じです。「やっぱり、おかしいでしよう、これは!」と感じる仲間がいることは心強いですし、ノーマルな精神状態でいることができます。たった

5人ではパワー不足なので、今はとにかく早く早く仕事に慣れ、一人前になることを目指しています。

ある程度、仕事ができるようになつたら、横つながりを広げて、組合を作っちゃおうか、自分たちで会社を立ち上げちゃおかと密かに自論んでいます。1人では潰されてしまうし、闘えないですね。仲間の大切さ、を感じます。そして、働いてお金稼ぐことはこんなに大変なことなのだと改めて思い知らされているところです。J A L はいい職場だったと……。なんだかんだ言いながらも、大好きな仕事、大好きなJ A L に早く戻りたい!

私も
応援します

**日航は、違法・不当解雇を撤回し
「空の安全」と人権を守れ!**

建交労愛媛県本部副委員長 沢田康夫

日本航空は、航空行政の誤りと放漫経営の責任を社員に押しつけ、2010年大晦日、パイロット81名、客室乗務員84名を理不尽な人選基準で不当解雇しました。解雇されたパイロットの中には航空連・日乗連・安全会議の議長や副議長などが含まれ、客室乗務員ではそのほとんどがCCUに所属し、安全運航を守るために会社にモノを言ってきた組合員が多くいました。

解雇のねらいは、利益・効率化を優先するための、会社の言いなりにならない労働者の排除、労働組合つぶしであり、憲法の理念・労働権と団結権、人権を踏みにじる許すことの出来ないものです。

航空機や列車など、人を大量に運ぶ公共交通機関は、乗客を“安全・安心”に運ぶことが最大の使命です。

国鉄の分割・民営化の際に行われた、国労、全動労組合員の採用差別=組合弱体化、JRの利益・効率化優先と専制的な労務管理の結果、2005年4月25日、福知山線列車脱線事故で乗客と運転士合わせて107名が死亡し、負傷者562名出す大惨事が発生しました。今から28年前、日航ジャンボ機が御巣鷹山に墜落し、520人が亡くなった未曾有の大惨事を絶対に忘れてはなりません。

人間の尊厳を守り、空の安全・安心を守るために、不当解雇に屈せず節を曲げずに闘う姿は何物にもかえられない貴重なものです。

何としても、3人の“愛媛の美女”原告を「あの大空に返させる」ために、私たちも全力で支援します！

不当判決を跳ね返すため、高裁で訴えていくポイント

不当労働行為による解雇

人員削減目標は達成していたのに、達成していないとして165名を解雇したのは、何としても解雇したい人がいたからです長年の分裂労務対策により、数々の不当労働行為が行われてきました。航空ですが、最後に破綻に乗じて整理解雇を強行したのです。

組合役員をターゲットに！

今回解雇された人の中には、航空連の現役議長を含めた3名の歴代議長、日乗連議長、安全会議議長、また、機長組合や乗員組合、CCU役員経験者が多くいました。



人員削減目標を上積みし 未達をねらつた会社

機長の削減目標人数は達成していたにも関わらず、途中から削減目標を増員しました。客室乗務員についても、会社は2010年9月28日になつて突然、削減目標数573名を662名へと8名も上乗せしてきました。また深夜勤務免除晋や欠勤者などが辞めても、0人としか換算しない計算方法(稼働ベース論)を持ち出し、希望退職数がなかなか目標に到達しないよう画策しました。

CCUに奔走してきたJAL

客乗職の第2組合(現在LALFIO)は1975年に作られました。それ以降会社は一貫してJALFIOを擁護し、CCUをつぶす分裂労務政策を続けてきました。

JALの歴史は分裂労務政策の歴史

- ◆ 新人だけの部署を作りCCU組合員とは接触させない
- ◆ 組合ニュースの配布を制限
- ◆ 専門訓練前に第二組合に加入させてしまう。
- ◆ 露骨な昇格昇給差別
- ◆ 新人にCCUのオリエンテーションをさせない
- ◆ 会社と第2組合が一体となり、1万人近い客室乗務員の個人情報を集めたファイル(監視ファイル)を作成していた……等々
- ◆ 長い間、不当労働行為が繰り返され、第三者機関での争いが続いてきました。
- ◆ 30数年間のCCUの差別に関する係争事件は10件にのぼります。「監視ファイル事件」で会社は、第1回目の裁判でお金だけ払つて裁判から逃げました(認諾)。事実上認めたも同じです。それ以外の事件はすべて組合が勝利判決や命令を引き出しています。

客室乗務員裁判

4人の証人採用決定

5月31日に行われた客室乗務員裁判で4人の証人の採用が決定されました。4人とともに申請していた醍醐教授は不採用となりました。

採用された4人、小栗(人員体制)、深田(不当労働行為)、久保田(不利益)、大森(人選)の証人尋問は、9月12日に行われる次の口頭弁論で行われます。

次回口頭弁論 9月12日 10:00~16:00